

先程クラブ協議会で申しあげましたけれども本日の訪問はイレギュラーいたします。ある意味では大変嬉しいイレギュラーでございます。55クラブについては同じ定型的な会長、幹事さんとの懇談会と約1時間の委員会発表を受けての一緒に情報を共有する勉強の場と卓話ということで公式訪問のスケジュールをいただいておりますけれども、先程の委員会の発表が非常に活発であった。幅広くなったために総評感想の時間が全部消えてしまったということで、むしろ私の方からお願いいたしまして、この卓話の時間の中で若干感想を述べてメッセージをさせていただくということでご了承いただきたいと思っております。

それよりもなによりも本日は普段お見かけしない直前ガバナーが、立場は「特別代表」でいらっしゃる。クラブの方が心配なのかガバナーがいびりに来たのが心配なのか来られたということと、セントラルパークさんが1テーブルそっくり来ていただいて、私を見張りに来たような気がして、大変光栄に思っております。

セントラルパークさんも中央分区のIMで素晴らしいパネルディスカッションでいろいろな発表をしていただきました。公式訪問のときにいただいたものは、実はその場ではすぐ出てこないものなのですが、いろいろと伺っているうちに訪問したときの活動状況等、頭のなかでパッと浮かんでまいりました。

中央分区の各クラブは非常に、ある意味ではアグレッシブに独自の活動を中心になさっている。他の分区ですと分区内のクラブ同士の連携がある部分もあると思っておりますが、勿論中央分区の連携性がないわけではありませんが、それ以上に各クラブのオリジナルが非常に強い。そういう意味では私共も勉強させていただいております。その中に第15番目として貴クラブがお入りになりましたことは本当に心からお祝いを申し上げます。

いろいろとお話しているとあっという間に終わってしまう。今日お入りになった大辻さんは生まれた日にちが大変よろしい。こんな素晴らしい日はないのではないかと。8月19日ですよ。私も8月19日です。こんな素晴らしい日はない。たまたま地区幹事の坂田と同じヨットをやっているということもありますし。…学校が気に入らない「早稲田」でございます。(笑)そういうことは卒業して私は50年過ぎておりますから、しょうがないなと思っております。

さて、前置きで失礼なことを申しあげましたが、今年度の国際ロータリーは、すでに会員の皆様はいろいろと学習をなさっていると思っておりますが、国際ロータリー、K. R. ラビンドラン会長のテーマは「Be a gift to the world」です。日本語訳で「世界へのプレゼントになろう」としております。

日本では東京の西地区を含めて34地区でございます。それで世界では1月、534から2つ増えて536地区でございます。新年度になり地区が7つ増えたようでございます。現在541地区あるということはガバナーが541名活躍していることかと思っておりますが、その1月のサンディエゴのセミナーのセッションの中で突然発表されます。

よく話が出るのですが、歴代のガバナーはそれを大事に持って帰ってあるときまで発表しない。PETSの時とか地区研修リーダーのセミナーまで今年のテーマはなかなか発表しない。こういうケースでやってこられた。今はインターネットで一秒後には世界中を駆けずり回っています。大事に持ち帰って「じつはねー」と言ったときには皆さん既にご存知で、ガバナーだけが恥をかくという時代になりました。そういう意味では世界のロータリーの活動も非常に瞬間的に変わっていくということを我々は再認識する必要があります。貴クラブの黒岩会長はインターネットを中心にしたプログラムを非常に推進しているお立場でいらっしゃる。そういう意味で、これから先のロータリーに非常にマッチしている、先駆性を持っているということ。私共地区の場合で言いますと、まだまだ追いかける部分がございますので、そういう意味では一緒に勉強しながら見習うことは見習う必要があるであろうということを先程から感じておりま

た。

さてそのラビンドラン会長さんはスリランカ、コロポRCの会員さんでいらっしゃいます。おそらくヒンズー教徒であろうかと推察いたします。ヒンズー教の中に先程会長がおっしゃっていましたが、私のメッセージがいくつかありますが、そのうちの一部を使っただいて、大体 80%くらい皆さんに話していただいております。

ラビンドラン会長のヒンズー教から出ているのかと私が勝手に思っているスピリットが「スダマの物語」という物語がヒンズー教の中にあります。人に対する思いやりの優しさが伝わっているのだと思います。そしてスダマの物語の中で人様に物を差し上げる心の優しさという部分があるようで、それが『Be a gift to the world』として使われたかなど。これは私自身が勝手に思っていることです。いろいろラビンドラン会長についての話もあります。

私共のロータリーでは「ガバナー月信」を発行しております。うちの地区は予算が制限されておりますから4月号は8ページですが、9月号以降は4ページで発行しておりますが、その関東号として何か毎月メッセージを書かせていただいております。

ところが『The Rotarian』という世界中に発行している英文雑誌の中で10月号を見ますとラビンドラン会長の話が掲載されています。1992年スリランカに自爆テロがあった。たまたま朝8時頃に、その当時ラビンドラン会長の9歳のお嬢さんが小学校に行く途中でペンシルケースを忘れたので文房具屋さんに寄った。寄っている間に自爆テロがあった。本当にその瞬間、マッチしてしまったか、すれ違ったかその状況はわかりませんが、ひょっとして運が悪ければそのテロに巻き込まれたのかもしれない。その事が、ラビンドラン会長がいちロータリアンとして目覚めた大きな原因だそうです。

その後、スリランカという国は世界でもベスト3に入るほどセキュリティの安全性が謳われるほどで、ラビンドランさんも中心になって活躍したと言われております。それはロータリークラブもかなり大きな貢献をしたと思いますが、彼自身のが娘さんがすれ違って助かったということが彼のロータリー人生の大きな根幹になった。その後、ロータリーをどうやって弱者に対して勧めていくか、子供達に対するサポートをどうやっていくかということが彼のロータリーの大きな根幹になっているということを書いています。もしも何かの機会がございましたら『The Rotarian』10月号を見てください。毎月いろいろなことが書いてありますが、たまたま読んだうちで一番印象に残っております。

実は今日の感想を申し上げなければいけないのですが、一番大事なことだけ先に述べさせていただきます。ラビンドラン会長の方針というのは『Be a gift to the world』。私自身の解釈では、世界の弱い人達に優しい心をあげましょう。それは gift と present という言葉で、日本語では present という言葉を使っていますが、優しい心をあげましょう、それは物かもしれない。心かもしれない。愛情かもしれない。いずれにしても弱い人達。あげるのは私達ロータリアンです。

私達ロータリアンは大体が事業、特に経済的な事業等である意味で成功してロータリーに入ってきている。あるいは成功を目指して入ってきている。その入ってきていること自体が大きな力を自分達が持っているという自覚をどこかでする必要がある。したことによって自分達がいただいたもの、或いは蓄えられたものを弱い人達に、子供達に、世界の全ての人達に注いでいく必要がある。これが『Be a gift to the world』という言葉に対する私の解釈です。

ですから皆様方もそれぞれの気持ちで心の中で今の言葉を反芻していただいて、御苑クラブの会員として、そしていちロータリアンとして『Be a gift to the world』をどうやってするかということをお考えになったらよろしいかということをお願いさせていただきます。ラビンドラン会長のポリシーはいくつかございますが、今日は割愛させていただきます。あくまでも精神的なものをすごく私は受け止めておりますので、皆様方にも是非共有していただけたらよろしいかなと思います。

ただひとつだけ違った範囲で申し上げますと、いくつかありますが、ロータリー財団への引き続きの貢

献をいただいておりますが、ご存知のとおり、ロータリー財団の機能というのが変わってまいりました。

皆様方がまだロータリーを認識していない時代、2010年から3年間、世界のRIは「未来の夢計画」というものを立案いたしました。その当時534地区ありました世界の地区のうち100地区に対してテストパイロットを実施するから希望者は手をあげなさい、ということで私共の地区は手をあげました。

日本34地区のうち6地区がそれにあたりまして、私共は2010年から3年間、地区として新しく発足するであろうロータリー財団への組織への参画を先に勉強いたしました。そして2013年7月からの年度、全世界、地区、クラブ一斉にRIはロータリー財団を違うポジションに置いたことで活動を始めました。

これはどういうことかと言うと、それまではRIの組織の下部にいろいろな組織の中にロータリー財団がございました。その2010年からの夢計画を通り越した上でRIは自分のポジションの脇に平行してロータリー財団を置くようになりました。

これはどういうことかと言うとロータリー財団へのそれまでの寄付のお金はどこに消えたか判らない。何に使われたか判らないとかいろいろな批判的なことが国内でもありました。しかしそれをもっと明確に皆様方から頂いたお金が動くようにそして皆様と一緒に共有して使うようにするために改革をしたわけでございます。

これは鄭さん、ロータリー財団委員長セミナーにご出席になったと思うのですが、クラブに帰ってそれをメッセージにするというのは微妙に難しい。ですからもしも可能であればロータリー財団クラブ委員長さんは3年間続けておやりになればいいのです。もう一年続けてやって、もう一回セミナーに出てそれでクラブの皆様には仕組みをもう一回説明する。

もっと簡単にちょっと代弁して言いますと、2012年13年3年前のロータリー財団に対する各クラブと地区の貢献、これに対して3年後のロータリー財団は50%地区に還元いたします。例えば2012年13年3年前ですよ、そのお金が仮にうちの地区から10万ドル寄付されたとします。その10万ドルに対して5万ドルが地区に戻ってくる。これが地区補助金の根源になります。

もうひとつ10万ドルに対してロータリー財団が一種のインベスティゲーションをして利益を生み出すということをやります。これはアメリカのほうでやります。それに対して配当を大体年間7~8%確保する。日本と違うと思うんですがこれは例えばアメリカのスタンフォードなど、いろいろな大学はそれぞれ事業体として経営的なものを学校経営に反映させるために事業投資をしております。ロータリー財団もそれを行なっている。それを利息として還元してくる。そういうものを日本の地区にも還元される。日本の全地区にも還元される。したがってうちの地区が10万ドルであれば5万ドルが還ってくる。

5万ドルのうち20%が毎年2018年に現在のラビンドラン会長はポリオ最終年度と宣言いたしましたから、あと3年ありますが、そこで終息宣言、「ポリオ・エンド・ナウ」ということですが、そこまでのポリオについての貢献を頭から20%、10万ドルの半分の5万ドルの20%、つまり1万ドルをそこで先に地区がポリオに対してもう一度寄付いたします。

それでそれはそれとして、実際は4万ドルなのですが、計算金額では5万ドルになる。その5万ドルに対してうちの地区の各クラブに地区補助金(DBF)、国際グローバル補助金(WF)、この補助金を各クラブが自分達で地域あるいは東北支援、いろいろなものがあります。地震支援、一番至近な例で言うと栃木と茨城に豪雨がありました。大災害が発生した。そういうものに対してクラブがすぐ何かをしてあげようということであればそれを対応していただく。

クラブの方でご自分だけの資金で足りなければ、随意、補助金を一緒に活用しましょう。ただしそれについては申請の制限があります。例えば7月1日から9月いっぱいまでの3ヶ月間で申請期間としますよ。10-11月は審査期間。現在審査をしているところなのです。

今年度の例で言いますと、もう一度話を戻しますが、2012年から13年の1年間に寄付したものが

50%戻ってきて、今年7月から3ヶ月間申請したものを今地区の財団委員会が審査しております。

地区70クラブあります。現在56クラブが既に3年目に入って、補助金を活用してお金をもらって社会奉仕に参画しております。今年度、2015-2016年度に入って地区16クラブが未提出しております。これを私は全部ゼロにしたいという運動をいたしました。何故か。16クラブが全部同じ権利を持っているから自分達に皆さんもお金を出す。金額の多少は若干ありますけれども同じ金額を使うという前提では同じなのです。そういう意味では16クラブに是非今年度は申請をしてくださいとお願いをしました。

実際に申請を10クラブがいたしました。その10クラブ全部におりかどうかは現在審査しております。25クラブを基準にして仮に10万ドルとすると、仮に1000万円だとすると70のうち25クラブに割り振りをしたいということがあるから一クラブ最高40万円というのが一応地区の方で作った目安なのです。そんな微々たる金なのかということがあるかもしれませんが、しかしクラブの方で50万円の資金で地域活動をする場合に財団の40万円を使うと90万円の活動ができる。そういう地域奉仕活動を皆さん見つけましょうということにつながるわけでございます。そういう意味では是非全クラブに使っていただきたい。

先程も言いましたように10クラブございまして、今審査をしております。ひょっとしたら全部OKかもしれない。今年度、28クラブ出ております。25クラブが対象ですから、もしもそのデコボコが、このクラブ20万円で済むから、こっちから持っていこうであれば28クラブ全部が実施でき適用していただける。そうすれば残り4クラブでございます。

貴クラブも先程委員会の発表ではグローバル補助金の対象を今考えておられる。この前も黒岩会長からベトナムにロータリークラブを創りたいということでメールとラインでたくさん入ってきました。あんまりいびられても困るのですが、やっぱりそういうのもひとつの社会奉仕、国際奉仕の一環で、それについてはひとつの暗黙のルールがあるから、ルールに則りきちんとステップを踏んでいけば御苑RCが国際的な奉仕活動にするんですよということはお伝えしております。そういうことをご理解いただきまして奉仕活動に入っていただきたいと思えます。

今もう一度ロータリー財団への機能がどうなっているかということと、貴クラブも大きな権利を持っているわけですから、是非奉仕活動を。奉仕はどういうことかということ、社会奉仕と国際奉仕委員会に関連してくる、青少年にも関連してきます。新宿区のことでは何かをやる、新宿区内の子供さん達に対してサポートをする、あるいは東北支援をする。そうすれば地域であれば社会奉仕委員会。東北支援にしても社会奉仕委員会。海外との協調を求めれば国際奉仕委員会。子供達を支援するために何かの活動を一緒にやろうとすれば青少年奉仕委員会。それぞれの委員会がそれぞれ勝手に動くのではなく、協調して一緒にやっていく、それがクラブの活性化に大きく貢献すると思えます。

それぞれのご担当の委員長さん、どうぞご自分ひとりで何かを見つけられない場合はそういう各委員長さん同士で情報を供応し、交換し、共有し、奉仕を進んでやるのだということを是非お心掛けいただきたいと思えます。

一番私自身が今年度お願いした根幹は、RI会長には『Be a gift to the world』というテーマがあります。それから黒岩会長は非常に難しい、みんなで奉仕活動を深めていこうという幅広い表現を聞きました。そういうふうにと考えると奉仕活動というのは自分達が見つけていくために自分達が考えること。したがって私は今年度、ガバナーにはテーマは要らないという考えで作っておりません。

RI会長とクラブの会長のテーマで充分。ガバナーは、あくまでもRIとクラブの間に入った橋渡しのお手伝いをする役目だ。クラブの会長に大きな権限と力があり、その会長を中心にしてクラブが奉仕活動を見つけていく。そういうことを大前提としております。その為にはどうしたらいいか。クラブの例会を充実してください。この例会を充実してお互いの友情を深めてください。お互いの友情を深めたらそのまま終わって今日はよかったねと言って帰るとこれから先はロータリーではなくなる可能性がある。世界

がそういう方向に動いている。その中で皆さんと一緒に奉仕活動をしよう。その奉仕の方向を何処に置くか。これは皆さんがそれぞれお考えになることです。我々が見てそれは奉仕なの？ということであっても密着性があり奉仕性が強ければ奉仕活動なのです。それをクラブの中で、みんなで助け合っ  
て見つけていく。それが非常に大事だと思います。

そういう意味で私は言葉で言うよそのクラブでも使っていました。クラブの例会の充実、親睦を深め、それから奉仕活動、この3点を「トライアングル」という言い方をしたのです。奉仕をすることによって友情がお互いに深まり、友情を深めることによって例会で発表したりして素晴らしく例会が充実する。更にまた奉仕を見つけていく。こういう方向に進んでいくのが素晴らしいクラブです。

基本的には黒岩会長は個性的で斬新な人なのですが、ロータリアンのオピニオンとしては大変革新的な意見を持っていらっしゃる。先程も地区に対するご提言をいただきました。いただいたものは持って帰り、お答えできるものはすぐにお答えし、引き継ぐものは引き継ぐということでございますが、そういうものを是非クラブの皆さんと一緒に共有して、今のロータリー財団とクラブの中で奉仕を見つけることを是非重視していただきたいと思います。

ひとつだけ私の年度のことについて申し上げます。もうすでに4ヶ月半経過しておりますから、普通7月から公式訪問が始まりますと今年度の事業計画を承り事業計画についてアドバイスするということだと思  
うのです。現にもう4ヶ月半いろいろな活動をなさっているからそれに対して心から敬意を表しますと共に、是非今年度の活動については実りあるものを出していただきたい。そしてまた次の宮代年度につなげていただきたいと思  
います。

そのためにIMがあり、いろいろなステップがあります。委員会、地区の委員会がある。例えば地区の職業奉仕委員会が7月にございました。お江戸日本橋老舗400年にわたる老舗の伝統の底力、その具現化というテーマで行いました。今年は160名の参加者があり、大変勉強いたしました。これについてもご説明をしたいのですが時間がないので省略致します。

第2回目は浅草をやりようと思ったのです。浅草はパネラーが多過ぎて傑出していないのでやめまして、渋谷栄一を取り上げて24日ハイヤットリージェンシーで行いますので、どなたでも参加できますので、是非参加していただきたい。

その集大成として来年2月24～25日の2日間に開催を予定してあります地区大会の25日の本会議にRI会長代理として、2002～2003年国際会長さんが今回来てくださることになった。それから「手嶋龍一」さんというNHKの元アメリカの総支局長で今は政治ジャーナリスト、手嶋さんの東アジアと日本の微妙な関係の中でロータリーがどうやって関わりがあるかということをお願いしています。

それともう一つはパネルディスカッションで職業奉仕の理念を研究しましょうということで、例えば東京クラブの2008年会長の虎屋の黒川さんという方がいらっしゃるのですが、虎屋さんは京都のお公家さんの流れですと500年を超す伝統で赤坂で居を構えていらっしゃる。そういう事業体の変遷、必ずしも順風満帆ではなかったと思うのですが、その中でどうやって、例えば関東大震災、太平洋戦争を乗り越えて現在の企業として頑張っているかということをお私達全会員が情報を共用できるパネルディスカッションをやるつもりですので、地区大会には是非ご参加いただきたいと思  
います。

いくつもございます。それ以外にも日台友好委員会、来年6月5日金沢大会があります。私共の地区が日本側の議長地区になっていきますので、役目柄私が来年の大会では議長になっております。できましたら、是非金沢大会に全員参加していただきたいと思  
います。

日韓友好委員会は去る9月4日に2750地区を中心に日韓東京大会がありました。何人かはお出  
席いただいたかと思いますが、その次に2016年5月28日から5日間行なわれるソウル国際大会へのご参加へのアシストをいたします。

3番目に「希望の風奨学金」。先日松坂さんが来て卓話をやったと思いますが、「希望の風」自体は

聞いていらっしゃると思いますが、2580 地区から発祥した。それに対して台湾が 1 億 2400 万円をポンと送ってきたことが現在につながっている大きな根幹です。あと 15 年間 2011 年 3 月 11 日、翌 12 日の東電の 2 日間の事故に関わっている、おなかにいたかもしれない子どもさんが 20 歳になるまでといたらあと 15 年あります。その 15 年間「希望の風奨学金」を継続するというをご理解いただきたい。

それとバギオについても現在継続中です。古い会員さんの中でもバギオって何？という方がいらっしゃる。バギオについてもクラブの卓話に呼んでいただいて是非ご理解いただきたいということでございます。

いっぱいございます。かといってじゃ次にと言われて呼ばれても来たくないところもありますので、もしも機会があれば宮代会長年度になったら一回卓話に来てもいいかなと思っております。黒岩会長には随分私は恩を返したつもりです。

最後に一言だけ、私の好きな言葉を申し上げます。住岡夜晃(すみおかやこう)さんという方がいらっしゃいまして、その方が書いた作品の中で、「讚嘆の詩」という仏教的な詩なのです。この中で「念願は人格を決定す・継続は力なり」という言葉があります。この継続は力なりという言葉はいろいろな方面で使われています。これは何かをやるときにみんなが一緒に力を出し合ってやれば前に進めるよ、という意味でとっている場合があると思いますが、私自身が自分で若いときに本を読んだときに、心の中にずっと残っているフレーズがある。

念願は自分で決定する。自分の人生は自分が決める。そのためには継続をしていく。いつも自分の心の中で、人間性を高める、そういう必要性がある。それだけ自分はいつまでたっても至らない。まだまだ弱い人間なのです。しかしそういう自分を励まして前へ進もうと発してくれているのは私の場合はロータリーでございます。そして今日もまた新しい友人とめぐり会ってこういうことが私にとっては「継続は力なり」だと思っております。もしもご理解いただけることがありましたら幸いでございます。

結びに一言。まだまだ発足して正式には 4 月 9 日、5 月 30 日に大きなイベントをパスいたしました。4 ケ月半でございますが、しかし実際にはリーダーが全然わからないで、ロータリーを知らないで発足するクラブがほとんどなのです。特別代表がいらっしゃる、普通は親クラブがあって 3 人が派遣されてその方達が 3 年間ケアをして新しい人を育てる。貴クラブの場合、鈴木直前ガバナーが特別代表であり、創立後ではありますが、セントラルパークさんが親クラブになられ、非常にラッキーでイレギュラーな部分があるのです。それに甘えることなく 2 年目、3 年目が自分達にとって大きなクラブになるための大事な期間だにご認識いただきまして、益々ご発展されますことを心からご祈念して私のお話とさせていただきます。本日はありがとうございました。

#### <閉会点鐘・黒岩会長>

今日は大辻さんの入会式あり、ポールハリスご寄付ありということで、やはり増強・奉仕・寄付と歯車の両輪が回り感激しております。鈴木ガバナーから沢山のご指導をいただきましたけれども、その中で一つお話ししたいことは、グローバル補助金につきましては、既に 9 月末に申請が終わっています。

増谷委員長ほか 5 名のメンバーがいわき市の原発から 30km ちょっとのところに参りまして、震災の遺児・孤児センターに対しての奉仕でございます。

どのような奉仕申しますと 7m の防波堤が海岸に津波の被害がないように造られているのです。ところがその手前では屋根が一切ないのです。公園はあるけど日影が何もありません。何故でしょうかと聞きますと、そういう構築物は余計なものがあると津波がまた来て全部流してしまうから何も構築していないので、去年、一昨年夏も、日射病などで元気で遊べないところが沢山ありました。そういうわけで、所謂「日よけの場所」を作ってあげたいということで遺児・孤児センターの日よけの場所を作ること

を念頭に置きましてグローバル補助金 40 万円の申請を致しました。私共、確かに 70 番目のクラブかもわかりませんが、是非とも表門から合格させていただきまして、来年の宮代年度の総額 100 万円の奉仕事業を実行させて頂きたくお願い申し上げます。繰越金を用い、必ずや有意義な奉仕事業になるものと確信しております。

それから「虎屋の羊羹」の話もごさいますが、赤坂本店は今閉店で建築中のごさいますので、今度の日曜日出発、台北菁華ロータリークラブと火曜日例会で友好クラブ調印致しますが、羽田空港免税店で「虎屋の羊羹」をお土産に 10 個ほど持ちまして台湾に行くことが決定しております。豊田副会長、よろしくお願い申し上げます。

それからもうひとつ豊田副会長にお詫びしなければならないことがあります。私が丁度「オンツウバンコク」の前頃に早稲田ロータリーの「中島さん」を「豊田さん」にご紹介したのですが、今日、ドタキャン 3 回目のごさいますが、決して悪い男ではございませぬ。いい男なのです。怒らないで末永く中島さんを可愛がっていただきたいと思ひます。中島さんに成り代わりましてお願いするところのごさいます。

今日は第 33 回目の例会、ガバナーの公式訪問を無事終えることができ、私も心晴々のごさいますが、いずれまたお越しいただき、私共を叱咤激励、そして教育をしていただきまして、更に立派なクラブになることを私共一同希望しておるところのごさいます。鈴木喬ガバナー、今日は本当にありがとうございます。第 33 回目の例会を終了させていただきます。